

統合医療ジャーナル

Integrated Medicine Journal

Vol.14号

発行元：日本医療情報出版
〒101-0021
東京都千代田区外神田 6-5-3
信楽ビル新外神田 5F
TEL.03-5688-7816
FAX.03-5688-7803
info@im-journal.com
隔月 20 日発行
年間購読料 ¥6,300 (消費税込)
振替口座：00140-7-600046

「健康づくり支援薬局」を認定制度に 専門知識がある薬剤師が情報提供を 認定薬局はサプリメント情報の拠点に

日本薬剤師会は、調剤事業を中心に描いていた「薬局のグランドデザイン」を17年ぶりに見直し、「健康づくり支援薬局」に生まれ変わるための構想を、6月をメドに策定する。健康長寿の延伸が国家的な課題となっていることから、セルフメディケーション重視の政策へと方向転換することになった。一方、日薬の意向を受けた厚労省は、平成26年度概算要求の中で、「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点の推進」として2億9,000万円を計上。「健康づくり支援薬局」の認定制度をつくり、認定薬局から地域住民に対して、食生活情報や介護ケア、OTC医薬品、サプリメント等の情報を発信する仕組みを描いている。

地域住民の疾病予防、早期発見などを総合的にアセスメントする役割を担い、薬剤師は多様な健康関連情報を提供して健康を維持増進する役割を担うことを打ち出すとともに、健康情報拠点推進事業については、「薬剤師会単独ではなく、地域の保健・医療等の中で薬局の健康支援機能が活用されるモデルを構築し、継続的に全国に普及拡大を目指す」との考えを示していた。

そして、日薬は、セルフメディケーション支援策として、下記の例を示してい

る。

- ・OTC薬等を用いた健康管理支援
- ・禁煙市支援(OTCでの対応が可能)
- ・自己検査機器等を用いた健康チェックとアドバイス
- ・栄養士と連携した栄養指導

◆相談に留まらず、商品の供給を

一方、厚労省が描く「健康づくり支援薬局」認定の流れは次のようになる。

今年4月から6月にかけて、都道府県ごとに「医薬連携・セルフメディケーション推進協議会」を設置し、支援薬局の認定要件を策定するとともに、薬局・薬剤師向けの説明会を実施する。支援薬局の認定要件は、①薬局であること、②研修を受講し、専門的知識を有する薬剤師が配置されていること、③健康相談に対応できる時間と空間が確保されていること、④健康相談に関する普及啓発、情報提供が行われていること、⑤医療機関や相談機関等と連携ができること、⑥相談者に対し無理に物品を販売しないこと—の6点を挙げている。

これら認定要件を満たし、かつ薬剤師が各種研修を受講している薬局は、都道府県薬剤師会に認定申請を行うことができる。そして、申請を受理した都道府県薬剤師会は、「医薬連携・セルフメディケーション推進協議会」に推薦し、協議会が認定の可否を決定するという流れだ。

日薬の構想では、「相談」「連携」に留まらず、医薬品や健康食品の供給を通じて、「解決」までを含めた健康支援を行うことができる体制を整えたいとしている。「健康づくり支援薬局」が普及すれば、地域の薬局は、サプリメントの情報発信と販売拠点として注目されそう

◆モデル構築し全国に普及拡大

薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点づくりについては、昨年6月に閣議決定した日本再興戦略の中で、「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーション推進のために薬局・薬剤師の活用を推進する」とが盛り込まれていた。

今月の主な内容

インタビュー：帝京大学医学部
大野 智氏 3
アメリカ栄養療法の現状と課題 4～5
連載「国際統合腫瘍学会」
視察レポート第2回 6
学術研究：カキ肉から新規抗酸化物質を発見 7
がん統合医療：赤坂 AA クリニック 8
機能的食品情報 10～12
症状別プラセンタ療法 8回 13

これを受けて、日薬が昨年12月に都道府県薬剤師会に出した文書では、今後の基本的な考え方について、「薬局は

「健康づくり支援薬局」認定・活用の流れ

申請（4月～6月） → 認定（7月～8月） → 活用（9月～）

申請要件（認定申請時提出）

- ① 薬局であること
- ② 7名以上の薬剤師（うち1名は在宅医療等の研修を受講し、専門的知識を有する薬剤師（以下「〇〇の薬剤師」と記載）が配置されていること
- ③ 薬局の健康相談に対応できる時間と空間が確保されていること
- ④ リフトアップデスク等を活用し、薬局の健康相談に関する普及啓発や情報提供が行われていること
- ⑤ 市民の相談に対応し、本人の了承のもと、医療機関や相談機関等関係機関と連携を図ることができること
- ⑥ 相談者に対して無理に物品を販売しないこと

認定後（認定後1年以内）

- ① 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ② 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ③ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ④ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ⑤ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ⑥ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）

認定後（認定後1年以内）

- ① 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ② 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ③ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ④ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ⑤ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）
- ⑥ 〇〇の薬剤師の研修（主として「健康づくり支援薬局」認定研修として実施）

機能的食品等の有効性を示唆する記事を複写して、一般消費者へ配布したり、消費者向け媒体に転載することは、著作権法及び健康増進法、その他の関連法規に抵触する恐れがあります。

がん統合医療

抗加齢ドックや美容皮膚科、点滴外来などの統合医療を実践する赤坂AAクリニック（東京都港区）。同クリニックでは、スペインの物理学者ホセ・カルベット博士が開発したINDIBA社製の加温施術機器を使った、がん治療を行っている。森吉臣院長（写真）に、がん統合医療の取り組みについて聞いた。

ーがん統合医療に関して、どのように考えていますか。

森 本来持っている自然治癒力を高めることを念頭に医療を考えています。

がんの治療においても、同様で、西洋医療に拘らず代替医療も取り入れた統合医療に取り組んできました。特にがん患者に接していると、抗がん剤の副作用で苦しんでいる人が多くいます。世界の文献の中から、効果があつて副作用のないがん治療の情報を検索し研究しています。

統合医療の中には、いわゆるエビデンスに乏しいものもありますが、個々の症例では良い結果を出しているものも多く、エビデンスだけで判断することの危険性を感じています。標準治療に採用されている化学療法は、がんのサイズの縮小効果で評価されますが、統合医療では、患者のQOL（生活の質）や延命効果を重視します。米国では、がん患者の半数以上が統合医療の治療を受けているデータがあり、世界ではがん治療の多様化がみられます。

ークリニックではがん患者にいくつかの療法を用いていますね。

森 まず、最初に自然治癒力を高める血液クレンジング療法から治療を始

統合医療は、患者の自然治癒力を高めてQOLや延命効果を重視する 温熱療法でヒトに優しい治療を

医療法人社団健若会 赤坂AAクリニック総院長 森 吉臣氏

めます。キレーション療法で有害ミネラルの排泄を同時にすることもあります。有害ミネラルは体内の酸化ストレス環境を悪化させ、酵素阻害により代謝を低下させるので、がん治療の弊害になります。

体内環境が改善され自然治癒力が高まったところで、抗がん治療として、高濃度ビタミンC点滴療法を週に1~2回のペースで行います。その他に活性NK細胞療法などの免疫強化療法、インシュリン強化（IPT）療法、温熱療法などをご希望で行います。

がんの治療は、温熱療法を組み合わせる複合療法が効果的で、特に高濃度ビタミンC点滴療法には欠かせないと思っています。併用することで、ビタミンC療法の効果を飛躍的に高めることができます。それによってビタミンC感受性が低いがんに対しても治療効果が表れます。

また、免疫賦活化や体力回復も期待できます。当院が実施したがん細胞株を用いた実験では、ビタミンC単体よりも、温熱療法を併用した方が、約1.5倍効果が増強できることを確認しています。

ー温熱療法では、INDIBA社の機器を



採用していますが、何故ですか。

森 温熱療法には、保険適用になる機器がありますが、高額でありサイズも大きいことから、クリニックで開業医が使用するには負担が大きいと思われます。

INDIBAハイパーサーミアは、コンパクトでわずかなスペースでも設置でき、高額ではないこと、エネルギー効率が良いことを評価しています。

使用するINDIBA CRetは、高周波電磁波エネルギーを体内に送り込み、体の深部で細胞内外の分子を振動させ、そのときの分子の摩擦によって、ジュール熱を発生させる機器です。

腫瘍は深部にある場合が多く、生体が発生するジュール熱を利用した機器でないと、深部加温ができません。体の表面の上昇を抑え、効率的に体内にエネルギーを送ることができ、特許を取

得している容量性電移法と抵抗性電移法で、容量の多いエネルギーを体の深部に送り込むことが可能です。同機器は、抗がん剤との併用療法においても、薬剤の感受性を上げることが

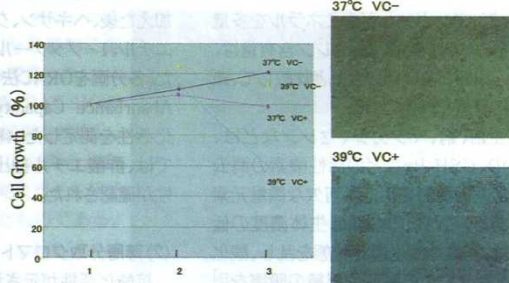


がん治療で使用する
INDIBA社の温熱治療器

報告されています。

がん患者は、治療に際して精神的、肉体的な負担が大きく、自律神経バランスを崩したり、低体温を訴えることもしばしばです。温熱療法は自律神経を整えたり、体の温暖化などの作用あり、ただ単にがんを小さくするだけの治療でなく、がん患者の不調にも関わって、温熱療法を組み入れたヒトに優しい治療を心がけています。

SW620（ヒト結腸癌細胞）



ー温熱療法では、INDIBA社の機器を